

# 連体修飾の接続形式「ような」の意味機能

金 春女

キーワード 連体修飾、「ような」、属性の具現化、意味論的条件、語用論的条件

## 1. はじめに

連体修飾の接続形式である「ような」は形態論的には助動詞「ようだ」の連体形とされ、単独で論じられることは少ない。しかし、「ような」と「ようだ」の意味は完全に一致するわけではない。

- (1) 「仮に東京、神奈川、愛知、大阪の知事がびっくりするような額が地方に納税されるようになれば、日本は素晴らしい国になるのではないか」と語り、4都府県への対抗意識を見せた。(朝日新聞2007/7/11朝刊)

(1)の「ような」の意味を「ようだ」で表すことはできない。そこで、本稿では「ような」を「ようだ」から切り離された独立した表現<sup>①</sup>と見なしたうえで、それが一種の属性表現として、属性を具現化する機能を有すると主張する。また、「ような」が成り立つためには、連体修飾成分と表現目標（連体修飾構造全体が表そうとするもの）との間に類似性の関係が成り立つ必要があり、語用論的な制約も受けるということを指摘するとともに、「ような」節と婉曲表現との関係を論じる。

## 2. 先行研究と本稿の立場

「ようだ（ような）」に関する先行研究のうち、「ような」に属性表現としての機能があることを指摘している研究に井上（1993）と森山（1995）がある。

井上は、「ような」を「個体参照的な属性記述」とし、「こ、そ、あ」との関連を中心に論じている。しかし、日英比較をすることで、「日本語では、<個体>

に言及するか、〈属性〉に言及するかを言語形式上明確に区別する」という主張の一部としてそれを取り上げているのみで、「ような」について詳細な考察を行っているわけではない。

森山は、連体修飾成分と被修飾名詞の関係を「不一致関係」、「不明関係」、「包含関係」とに分け、それぞれに対応する用法を「比喩」、「推量」、「例示」の三つに分類しながら、「ような」が属性を表す場合もあると述べるにとどまっている。

また、森山は、「よう」と「みたい」が相互に置換できる場合を中心に考察しているが、次の(2)におけるように、それらを置き換えることができない事例も数多く存在する。

- (2) a 別府に、別府から湯布院に行くような道がこう山沿いにずーっとあるじゃんね。(名大会話)
- b \*別府に、別府から湯布院に行くみたいな道がこう山沿いにずーっとあるじゃんね。

森山は、「ような」を意味・用法という観点から考察している。本稿では、学習者という立場に立ち、話し手が「ような」を「何のために」用いるか、また聞き手・読み手が「どのように理解するか」という観点から分析を行う。

### 3. 分析

#### 3.1 属性の具現化

形容詞が典型的に表しているのは属性である(南 2006)。そのため、物事の属性を表すものとして一般的に想起されるのは形容詞(形容動詞も含む、以下同様)である。

- (3) きれいな人が好きです。(作例)
- (4) それ、大きい病院にはあるんじゃないの。(作例)

(3)で話し手は「きれいな人」が好きだということを伝えようとしている。同様に、(4)で話し手が伝えようとしていることの焦点は「大きい病院」である。しかし、「きれい」にも「大きい」にも程度があり、どの程度のきれいさであるか、またどの程度の大きさであるかは(3)でも(4)でも表されていない。一方、次

の(5)と(6)のように「ような」を用いた文ではどうであろうか。

- (5) 花子のような人が好きです。(作例)  
 (6) F004：脳外科はたぶん、レーザーが相当普及しているんだよね。  
 F018：どこの病院でもってわけに行かないでしょ、でも。  
 F004：うーん、でも手術を行うような病院にはあるんじゃないの。  
 (名大会話)

(5)において話し手が好きなのは「花子」ではなく、「花子が持っている属性を有する人」である。その属性は「きれい」であっても、ほかのなにかであってもよく、そのような属性の持ち主であれば誰でもいいのである。つまり、「花子のような人」というのは「花子」という具体的な個体を持ち出してその属性を表した表現である。したがって、「ような」がなくなるとその属性も抜け落ちてしまう。

- (7)\* 花子の人が好きです。  
 (8) 花子が好きです。

(7)は文として成立しない。また、(8)では「好きな人」が「花子」に限定されている。つまり、「花子」は属性を具現化するために使われているのではない。

(6)に関しても(5)と同様のことが言える。(6)で話し手が伝えようとしていることの中心は「手術を行う能力を持つ病院」である。つまり、「手術を行う」というのは病院の規模を判断するための一つの指標であり、話し手の意図は、その程度のレベル・規模を備えているという点にある。(6)から「ような」を取り除くと意味に変化が生じる。

- (9) F004：脳外科はたぶん、レーザーが相当普及しているんだよね。  
 F018：どこの病院でもってわけに行かないでしょ、でも。  
 F004：うーん、でも手術を行う病院にはあるんじゃないの。

(9)の下線部は、表現としては適格である。しかし、その意味は(6)におけるのとはいくぶん異なるように思われる。(6)の「手術を行うような病院」は「手術を行うくらい規模・質を有する病院」という意味であり、病院の規模ないしは質を問題にしている表現である。これに対して、(9)の「手術を行う病院」とは「通常業務として手術を行っている病院」のことであり、ここには病院の規

模や質に対する含意はない。<sup>(2)</sup>

このように「ような」は属性を具現化する機能を有する。「ような」と形容詞は属性という点においては同じであると言えよう。しかし、両者の間には違いもある。それは次に例示するように、「ような」が複数の属性を表すことが可能であるのに対して、形容詞は単一の属性しか表せないということである。

- (10) 社会保険庁の無責任な個人データの管理には心底、怒りを覚えます。  
(作例)
- (11) 五千万件の「宙に浮いた」年金記録のような個人データの管理には心底、怒りを覚えます。(作例)

(10)の「無責任な」は「無責任」という単一の属性しか表していない。これに対して、(11)の下線部は連体修飾成分である「五千万件の『宙に浮いた』年金記録」が持つすべての属性を表すことが可能である。「五千万件の『宙に浮いた』年金記録」に関しては世間の共通認識として「でたらめ」、「無責任」、「杜撰」などのマイナスのイメージ・判断が存在すると考えられる。(11)ではこれらの評価語が表されていないけれども、「五千万件の『宙に浮いた』年金記録のような」によって、それらが含意される。そこで、(12)におけるようにそのような意味を表す複数の形容詞・形容動詞と共起することができる。少なくとも書き手は「五千万件の『宙に浮いた』年金記録」にこのような意味を込めていると考えられる。そのような込められた意味に読み手が同感できない場合もあるし、書き手が想定している属性以上のものを読み手が挙げる場合もある。

- (12) 五千万件の「宙に浮いた」年金記録のような、社会保険庁のでたらめ、杜撰、無責任な個人データの管理には心底、怒りを覚えます。(朝日新聞 2007/7/12朝刊)

自分が好きなタイプの人を言う時、「やさしい」、「頭がいい」などの形容詞を並べることもできるが、聞き手・読み手が知っている人の中にそれらの属性をすべて備えた人がいるとしたら、「～のような人」と表現したほうが話し手の意図がいつそう伝わりやすい。同じ属性を持つ、一般の人に知られている人を例示することにより、言おうとする対象の人が具現化され、分かりやすくなるためである。これは、好きなタイプの人を聞く際に「芸能人で言うと？」と芸能人の名前を挙げさせるのに似ている。「ような」の機能もこれと同じである。属性を具現化することにより話し手が表現目標をより理解しやすくするのであ

る。

### 3. 2 「ような」節と形容詞

3. 1で触れたように「ような」節は複数の属性を表すことが可能である。そのため、複数ある属性のうちいずれかを強調したい場合には、(13)のように属性を表す修飾語・修飾節がしばしば添加される。

(13) 花子のようなきれいな人が好きです。(作例)

(13)では「ような」節が形容動詞「きれいだ」と共起している。安田(1997)は、このような場合には「例示」の意味合いが強くなるとしている。確かに、属性を表す語と共起しているので、「花子のような」は「例示」と見ることも不可能ではないが、これは単なる「例示」ではない。「花子のような」が「美しい」と共起することにより、「花子」の数多くの属性のうち、「美しい」という属性に焦点が当てられる。この文で表そうとしているのは「きれい」という属性である。「花子」により「美しい」という属性が具現化され、「きれい」は「花子」の属性のうちの「きれい」に絞り込むことにより、内容の理解を容易にしていると考えられる。

次の(14)は、被修飾名詞である「美人」が「美しい」という属性を含意する場合である。

(14) 花子のような美人が好きです。(作例)

「美人」は名詞であるが、「美しい」という属性を含意している。そのため、(13)におけるのと同じ効果がある。このような名詞としてほかに「若造」、「美男子」、「若者」、「新人」などがある。

### 3. 3 「ような」節が使われる理由

「ような」節が使われる理由として以下の二つが考えられる。

一つは、表そうとする属性をより分かりやすく聞き手・読み手に伝えるためである。3. 1で述べたように形容詞による属性表現は抽象的である。そのため、その形容詞が表そうとする属性の典型的な持ち主を、「ような」を用いて表すことによりその程度が限定され、より理解しやすくなる。上掲の(3)の「きれいな人」よりは(5)の「花子のような人」のほうが具体的で理解しやすいであろう。「花子」を知っている人はもちろん、知らない人でも「花子の有するある属

性」について言っているのだと判断できる。

もう一つは、形容詞では表現目標を達成することが難しいため、「ような」節が用いられるということである。たとえば、次の(15)において、連体修飾成分に代わる相応しい形容詞を選び出すことは難しい。

- (15) 苦虫をかみつぶしたような顔を見ると、会社での表情まで想像できた。仕事の厳しさを見せつけられた思いで愕然(がくぜん)とし、寂しくなった。(朝日新聞2007/4/24朝刊)

このように、「ような」による連体修飾は形容詞では的確に表現することができない場合に用いられる傾向が強いとすることができるのではなからうか。

## 4. 「ような」の成立条件

3節では「ような」が属性を具現化する機能があると述べたが、属性を表すのであれば、どのような場合でも使えるとは限らない。「ような」が使えるためには、次のような条件が備わっていなければならない。

### 4.1 意味論的条件

連体修飾成分と表現目標との間に、属性の類似性が成り立たなければならない。

- (16) 11月とか12月は、本当に地獄のような日々だから、まずいけどね。(名大会話)

(16)における連体修飾成分「地獄」と表現目標との間には、共通の属性「苦しい」などのマイナスイメージがある。(16)が成立するのはそのためである。

連体修飾成分と表現目標との関係はさまざまである。次の(17)は、属性の程度を表す例である。

- (17) この前ポーランドから来た3人組の人の一人は、なんか、ベッドが小さすぎて困るような、でっかい人だったのね。(名大会話)

(17)の表現目標は「大きい人」である。しかし、「大きい」には程度の差があ

る。連体修飾成分である「ベッドが小さすぎて困る」は、「大きい」という属性の程度を表している。つまり、その属性がどの程度のものであるかを具体的に示すことによって、表現目標を達成しているのである。次の(18)についても同様のことが言える。

- (18) 私が最もひかれるのは旅に出て、ホテルや土産店でもらうレジ袋だ。中には、額に入れて飾っておきたいような芸術作品が印刷されたものがある。(朝日新聞2007/7/11朝刊)

このような程度を表すものの特徴の一つとして、連体修飾を文に展開した時に、「ようだ」ではなく、「ぐらいだ」という程度を表す表現になりやすいという事実が挙げられる。

- (19) a \* (あの芸術作品は) 額に入れて飾っておきたいようだ。  
 b (あの芸術作品は) 額に入れて飾っておきたいぐらいだ。  
 (20) a \* この前ポーランドから来た3人組の人の一人は、でっかくて、ベッドが小さすぎて困るようだった。  
 b この前ポーランドから来た3人組の人の一人は、でっかくて、ベッドが小さすぎて困るぐらいだった。

次の(21)は、表現目標が連体修飾成分に類似していると書き手が判断している例である。

- (21) 首に絞められたような跡があり、女性の所持品がなかったことから同署は強盗殺人事件として捜査。(朝日新聞2007/7/9夕刊)

(21)において、表現目標は「絞められた跡と同じ特徴を持っている」ということである。しかし、その跡が本当に首を絞められてできたものであると断定できない。(21)で「ような」が用いられているのはそのためである。このような場合、「ような」節を重ねた次のような表現が成り立つ。

- (22) 薄いブルーのような、グリーンのようなね、そういう紙で包んであったけどね。(名大会話)  
 (23) それについての何かコメントのような詩のようなものを、こう、同じ筆でね、一筆で書くんですって。(名大会話)

⑳は紙の色を思い出しながら、「薄いブルーのような、グリーンのような」と述べている文である。このように「ような」節を重ねているのは、話し手が自分の判断に自信を欠いているからである。㉑も同様である。

## 4. 2 語用論的条件

上述の意味論的条件を満たしていても「ような」節の使用が不適切な場合がある。

- ㉒ 別府に、別府から湯布院に行くような道がこう山沿いにずーっとあるじゃんね。(= 2)

この文は意味論的に問題ないと思われる。しかし、別府から湯布院に行く道がどのようなものか分からない人には話し手の伝達意図が聞き手に伝わらない。したがって、表現目標を達成することができない。これは「共通認識」という語用論的な制約を破っているからである。「ような」構文の語用論的制約には、典型性と共通認識という二つの制約が存在すると考えられる。

### 4. 2. 1 典型性

前述したように「ような」は属性を具現化する表現であり、それが成立するには属性の類似性が必要である。そのため、連体修飾部分が表現目標の典型的な持ち主であればあるほど、成立しやすくなる。つまり、連体修飾部分の属性が想起しやすいものであると聞き手が理解しやすくなる。例えば、「苦しい」という属性を表すために、㉓の発話をしたとしよう。

- ㉓ みんながいるうちの11月とか12月は、本当に地獄のような日々だから、まずいけどね。(名大会話)

㉓の連体修飾部の「地獄」は「現世で悪業をなした者がその報いとして死後に苦果を受ける所(『広辞苑』より)」であり、「苦しい」という属性の典型的な持ち主であると言えよう。そのため、(25)は理解しやすいと思われる。次の㉔と㉕はどうだろう。

- ㉔ ? さっき空港に着いたような人を探してきてください。  
 ㉕ ? 餅つきをしているような人と結婚するか?



⑳と㉑の文としての適格性に関して、日本語母語話者の間にばらつきが見られる。それは「さっき空港に着いた人」、「餅つきをしている人」の属性・特徴が不明確で、それを容易にイメージすることができず、表現目標の属性との関連付けが難しいためであると思われる。したがって、特定の状況を与えるなどを行うことによって、容認度が高くなる。㉑を次の㉒のように直すとその容認度は高くなると思われる。

㉒ 毎日餅つきばっかりしているような人と結婚するか。

「毎日」と「ばっかり」が加わることで「毎日餅つきばっかりしている」となり、「つまらない」などの属性と結びつくことになり、「つまらない」という属性の典型的なものに接近するため、その容認度が高くなると考えられる。

#### 4. 2. 2 共通認識

一般的に、連体修飾成分が有する属性を話し手と聞き手は共有しなければならない。

㉓ 花子のような人が好きだ。(作例)

㉓は、「花子」という具体的な人を引き合いに出して、どんなタイプの人が好きであるかを述べた文である。この文で問題になるのは「花子の属性」である。「きれい」、「やさしい」、「頭がいい」などいろいろな属性が考えられるが、この文が成立するためには、話し手と聞き手の両方が「花子」がどのような属性の持ち主であるかを知っていなければならない。聞き手が「花子」がどのような人であるか知らない場合、この文は理解されない。この文が語用論的に成立するためには、「花子」の属性についての共通認識が必要である。

ところで、「花子のような人」はそれが単独で用いられた場合には、「花子」が有する属性のすべてを表すことが可能であるが、文脈が加わると一部の属性に限定される。そして、それを特定することが可能となる。㉓では「好き」という言葉が使われているので、「花子」のプラスイメージの属性を表そうとしていると判断できる。しかし、「好き」が「嫌い」になっていたらマイナスイメージの属性を表すことになる。

## 5. 「ような」と婉曲表現

「ような」<sup>③</sup>は、しばしば婉曲表現として用いられる。<sup>④</sup>尾谷（2004）は、「ようだ」を説明し、知らなければ推量、知っていれば婉曲であるとしている。前述のごとく、「ような」は属性を具現化する機能を持つ。それは、連体修飾成分と表現目標の属性の類似性によって成り立つものである。

関連性理論では、人間の認知は発話の解釈において、関連性が最大である解釈を採用する傾向があるとされる。関連性の程度は文脈効果と処理労力により決定される。文脈効果が高いほど関連性が大きくなり、処理労力が少ないほど関連性が大きくなる。（D.スperlベル&D.ウイilson1999）

「ような」が婉曲表現と見なされるのはこの関連性が関与しているものと考えられる。連体修飾成分が表現目標の典型的な事柄を表すものである場合には、その関連性が高い。それは聞き手がその属性を簡単に想起でき、話し手の伝達意図が理解しやすくなるからである。逆に、属性が周縁的であればあるほど、その関連性は薄くなり、聞き手・読み手が話し手・書き手の伝達意図を理解するのに時間と労力がかかる。最終的には話し手がどのような属性を表そうとしているのか把握できなくなり、曖昧だと感じることになる。

もう一つは「ような」の属性を具現化する機能により婉曲表現が成立することを指摘しておきたい。「ような」により属性が具現化され、読み手・聞き手が理解しやすくなる一方、曖昧さを生み出す場合もある。(5)を再掲した③①において修飾成分である「花子」は「きれいだ」、「頭がいい」、「やさしい」などの属性があると考えられる。

③① 花子のような人が好きです。

③①のままでは「花子」のどの属性を表そうとしているのか断定しにくくなる。つまり、属性を具現化することにより、話し手が伝えようとする属性以外のものも含意することになり、曖昧であると感じさせるのである。しかし、文脈から話し手が伝えようとする属性が把握できる時には曖昧さが解消されると思われる。たとえば、③①がそれである。

③① A：どんな人が好き？

B：花子のようなやさしくて頭のいい人。

③1)においては「花子」の属性のうちの「やさしい」と「頭がいい」が限定され、曖昧さが薄れると思われる。③0は花子のどの属性を表そうとしているか判断できないために曖昧であると理解する場合である。安田（1997）は、これを例示と説明している。

聞き手が、話し手が好きな人がほかではなく「花子」であると判断した場合にも③0は婉曲表現として理解される。③0と③2を比較してみよう。

③2 花子が好きです。（作例）

「ような」節において焦点は連体修飾成分である個体に置かれるのではなく、その個体が有する属性にある。そのため、③0の焦点は花子の属性に置かれている。しかし、③2においては、焦点が個体である「花子」に置かれる。つまり、③0と③2の焦点が異なる。この③0を理解するにあたり、「話し手は花子が好きなのだ」という文脈が存在するとする。したがって、聞き手は話し手が③2の代わりに③0を発話したと理解することになる。「花子自身」を表す③2の代わりに属性に焦点が置かれる③0を用いることにより、焦点が「花子」から「花子が有する属性」に移動したと聞き手は判断するのである。その結果、③0が曖昧であると理解される。安田（1996）が婉曲表現であるとしている次の③3に関しても同様のことが言える。

③3 先に述べたような方法でやってみたらどうでしょうか。（p.77）

これが曖昧であると理解されるのは、話し手が伝えたいのが「先に述べた方法」であると聞き手が判断した場合である。

## 6. おわりに

本稿では「ような」を一つの独立した表現として扱い、属性を具現化する属性表現であると述べた。また、「ような」が成立するには意味論的制約と語用論的制約を受けるということ、また、「ような」節と婉曲表現との関係を論じた。

本稿では連体修飾成分を分類せず一括で論じたが、名詞、動詞節などに分類して考察することにより、新しい一面が見えてくる可能性がある。また、類似表現である「みたいな」、「などの」、「といった」などと比較分析し、さらに考察する必要がある。

## 注

- (1) 安田（1996・1997）も「ような」を独立した表現として捉えている。森山（1995）は、「ような」を独立した表現として捉えていないが、「よう」の連体用法には文末用法にない意味があるとしている。また、鈴木（2005）によると、「ようだ」、「ような」、「ように」のうち、「ような」の使用頻度が一番高く、重要な表現である。名大会話コーパスの検索結果では、「ようだ（文末）」の用例が6例に過ぎないのに対して、「ような」の用例が452例と圧倒的に多かった。このような結果からも「ような」の意味・用法を明確にする重要性を垣間見ることができると言えよう。
- (2) 西山（2003：66）は、名詞句には指示的名詞句と非指示的名詞句があり、指示的名詞句には指示的用法と属性的用法がある指摘している。西山によると、次の③は、属性的用法としても指示的用法としても解釈可能である。

③ 洋子を殺した奴は、精神異常者だ。

話し手が洋子を殺した人が誰か知らない状況で、どこの誰であれ、精神異常者であると主張している場合は属性的用法であり、洋子を殺した人が誰であるか分かっていて、その人に特定して「彼が精神異常者だ」と主張している場合は指示的用法であると西山は言う。そして、西山はこれを属性的であると説明しているが、これはあくまで指示的用法である。連体修飾節に当たる人は一人しかいない。これに対して本稿で言う「ような」は属性を具現化しており、連体修飾節に当たる人を一人に限定しているわけではない。

- (3) 多くの研究は「ような」を「ようだ」の一部として扱っており、ここでは「ようだ」も含む。
- (4) 「ような（ようだ）」を婉曲表現としている先行研究には安田（1996）、黄（2004）などがある。

## 参考文献

井上 優（1993）「日本語の『ぼかし表現』をめぐって」『日本学研究』3、北京日本学研究中心、今日中国出版社

- 尾谷昌則 (2004) 「<類似性>に基づく表現“like”と「よう」を中心に」『認知言語学会論文集』第4巻
- 黄 鈺涵 (2004) 「日本語教育における『ようだ』の婉曲表現としての機能分類について」『早稲田大学日本語教育研究』Vol.5 (2004. 0901) 早稲田大学
- 鈴木庸子 (2005) 「新書の文章における『ようだ』の用例について—日本語教育の観点から—」『國文目白』44, 2005
- 高橋美奈子 (1995) 「トイッタとノヨウナ」『日本語類義表現の文法』下 くらしお出版
- D.スベルベル&D.ウイルソン (1999) 『関連性理論—伝達と認知—』内田聖二他訳 研究社出版
- 西山佑司 (2003) 『日本語の名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房
- 南佑亮 (2006) 「形容詞属性叙述文にみられる属性判断の階層性について」『日本認知言語学会論文集』 6
- 森山卓郎 (1995) 「推量・比喻比況・例示—『よう／みたい』の多義性をめぐって—」宮地裕・敦子古稀記念論文集、『日本語の研究』明治書院
- 安田芳子 (1996) 「連体修飾形式『ような』の意味・機能—VようなNの場合—」『言語科学研究：神田外語大学大学院紀要』Vol.2 (1996. 0300)、神田外語大学
- (1997) 「連体修飾形式『ような』における<例示>の意味の現れ」『日本語教育』92号、日本語教育学会

## 例文出典

(朝日新聞)「朝日新聞オンライン記事データベース『聞蔵(きくぞう) II for Libraries』」

(名大会話) 名大会話コーパス(科学研究費基盤研究(B)(2)「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」(平成13年度~15年度、研究代表者:大曾美恵子)の一環として作成されたもので、2名から4名の日本語母語話者による雑談を収録、文字化したものである。2007年2月から「茶漣」の検索対象となっている。)

茶漣: <http://tell.fll.purdue.edu/chakoshi/public.html>